

かく おもい出して かこう

いいこと いっぱい、一年生

もう すぐ 二年生。
 一年生に なってから、いっぱい
 いっぱい いい ことが ありましたね。
 しゃしんを 見て おもい出したり、
 まわりの 人に きいたり して、
 どんな いい ことが あったかを、
 かきましよう。



一年生



- うれしかった こと
- たのしかった こと
- おどろいた こと
- がんばった こと
- できるよになった こと
- あたらしく した こと

(書きかたのれい)

「え」をかきましよう。

「ま」は、一マスあけます。(だめ)
 (あます)

がんばった玉入れ

○一年二くみ○よしおか○ゆう

○ぼくは、うんどうかいで、玉入れをがんばりました。

れんしゅうのときに、先生が、「玉をひろったら、かごのちかくに、おしえてくれました。」

うんどうかいでは、ぼくたち赤ぐみがかちました。らいねんもかるといいとおもいます。

• おもった こと

• いわれた こと

• あった こと

• した こと

• いった こと

← 「かぎかき」

文しやうを かいたら、かきまちがいが
 ないか、たしかめましよう。
 できあがった 文しやうを、(ともだちと)おうちのひと
 よみあいましよう。

うんどうかい、
 たのしかったね。

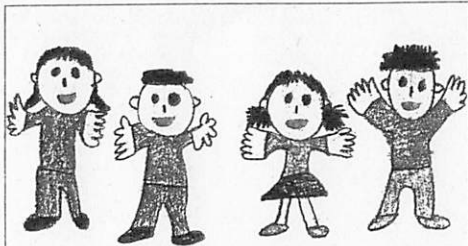


先、一年生先生

玉入れ先生

②ー(1)

たのしみだね にねんせい



ともだちがいっぱい
 たにぐちかずや
 にゅうかくしきのひは、ともだちが
 できるか、ちよっとしんぱいでした。
 でも、ゆうきをだして、となりの
 七木のひらい、さんに
 「ともだちになろうね。」
 といったら、
 「うん。」
 といってくれました。ぼくは、いって
 よかったなとおもいました。
 にねんせいになったら、もっと
 たくさんともだちをつくりたいです。

ちね、せい
 たの、いよ



まおちゃんをあんないしたよ
 さのゆうか
 いちねんせいのはたのしいよのから、
 まおちゃんに、たいくかんをみせて
 あげました。さいしは、どきどき、
 して、うまくはなせませんでした。
 でも、さいごに、まおちゃんが、
 たのしかた。はやくいちねんせい
 になりたいです。
 といってくれました。
 まおちゃんがいちねんせい
 になったら、やすみじかにいしょに
 あそびたいです。

にねんせいになったら、
 どんなことがまっているかな。

だって だっての おばあさん

さの ようこ さく・え

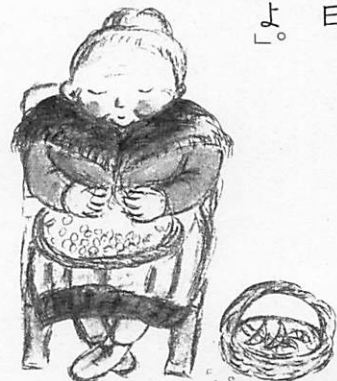
ある ところに、小さな うちが ありました。
うちの まわりに 小さな はたけが あって、
やさいが うえて ありました。げんかんの そばに、
いつも、つりざおと 小さな ながぐつが ありました。



はんたいがわの まどの 下に、
いすが 一つ ありました。
この いえには、
おばあさんと 一ぴきの
ねこが すんで いました。
おばあさんは、
とても おばあさんで、
九十八さいでした。
ねこは、げんきな
男の ねこでした。



ねこは、まい日、ぼうしを かぶって、
ながぐつを はいて、つりざおを もって、
さかなつりに いきました。ねこは、まい日、
「おばあちゃんも、さかなつりに おいでよ。」
と さそいました。おばあさんは、
「だって、わたしは 九十八だもの。
九十八の おばあさんが
さかなつりを したら、にあわないわ。」
と ことわりました。



出かけました。そして、おばあさんは、
まどの 下の いすに すわって、
はたけで とれた まめの かわを
むいたり、おひるねを したり しました。
「だって、わたしは 九十八だもの。」
ねこは、まい日、たくさん さかなを つって
かえりました。おばあさんは、ねこに いいました。
「なんて、おまえは、さかなつりが
じょうずなんだろう。およいで とるのかい。
どこの 川で とるんだい。」



ねこは、

「おばあちゃんも いっしょに くれれば、ぼくが
さかなを とる ところ、見られるのに。」
と いいました。

さて、きょうは、おばあさんの
九十九さいの おたんじょう日です。
おばあさんは、あさから ケーキを
つくりました。ねこは、おばあさんの
つくる ケーキが 大すきでした。



「おばあちゃん、ケーキを つくるの、じょうずだね。」

「だって、わたしは おばあちゃんだもの。」

おばあちゃんは、ケーキを つくるのが

じょうずな ものよ。」

おばあさんは、ねこに いいました。

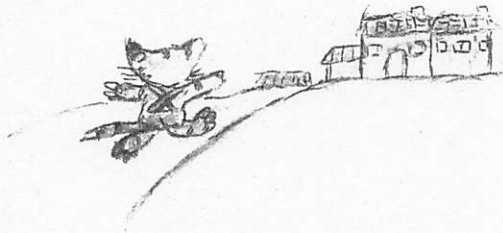
「ろうそくを かって きて おくれ。」

九十九本だよ。ろうそくを かぞえなくっちゃ、

ほんどうの おたんじょう日じゃ ないもの。」

ねこは、ろうそくを かいに いきました。

いそいで、いそいで、大いそぎで いきました。



いい においが して きました。

「ふん、ふん、ケーキは 大せいこう。」

これは、大せいこうの におい。」

おばあさんは、テーブルの 上に、

おたんじょう日ようの テーブルかけを

かけて、ナイフと フォークを 出しました。

その とき、ねこが、大きな こえて

なきながら、かえって きました。ねこは、

左手に やぶれた ふくろと、右手に

ろうそくを 五本、もって いました。

ねこは、あんまり いそいだので、

川の 中に ろうそくを おとして

きて しまったのです。

ねこは、おばあさんの かおを 見て、

まえよりも もっと 大きな こえて なきました。

おばあさんは、がっかりしました。

「五本だって、ないより ましき。さあ、ろうそくを、

じょうずに ケーキに 立てて おくれ。」

五本だって、ないより ましき。」



テーブル
よみかたに
気をつけ
ましょう。
フォーク



立てる

おばあさんは、あかりを
つけて、ろうそくに 火を
つけました。あたりが

あかるく なりました。

「おばあちゃん、かぞえて。」

と、ねこが いいました。

「一つ、二つ、三つ、四つ、

五つ。ろうそくを

かぞえると、ほんとうに

おたんじょう日の きぶん

なるわ。」

おばあさんは、もう 一かい

かぞえました。

「一さい、二さい、三さい、

四さい、五さい。五さいの

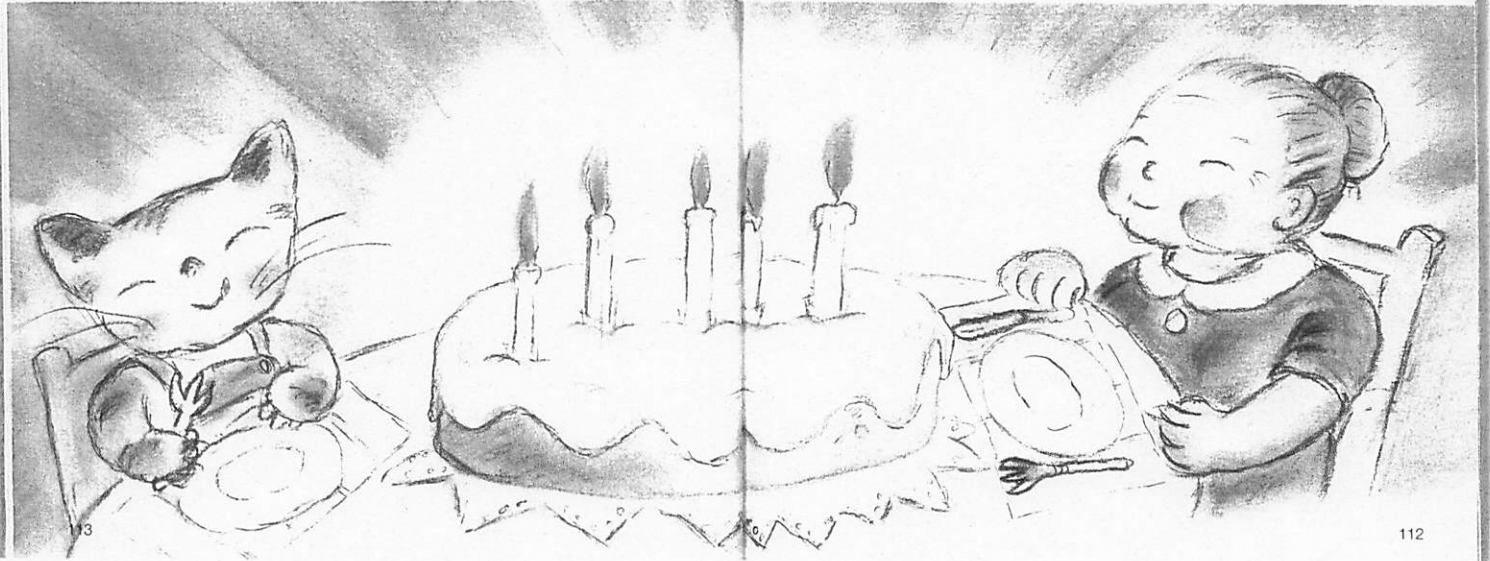
おたんじょう日、おめでどう。」

と、じぶんで じぶん

おいわいを いいました。

ねこが、もう いちど

かぞえました。



112

「一さい、二さい、三さい、四さい、五さい。五さいの
おたんじょう日、おめでどう。おばあちゃん、
ほんとに 五さいなの。」

「そうよ。だって、ちゃんと ろうそくが 五本

あるもの。ことし、わたし、五さいに なったのよ。」

と いいました。

「ぼくと おんなじ。」

そして、ふたりは、おいしい ケーキを たべて、

ねました。

つぎの あさ、ねこは、ぼうしを

かぶって、ながぐつをはいて、

さかなつりに 出かけようと しました。

「おばあちゃんも、おいでよ。」

おばあさんは、

「だって、わたしは 五さいだもの。」

あら、そうね。五さいだから、さかなつりに いくわ。」

と 言って、おばあさんは、ぼうしを かぶって、

ながぐつを はいて、げんき よく、ねこと

いっしょに 出かけました。



114

のはらは、とても ひろくて、やさしい
 かげが ふいて いました。おばあさんは、
 もう ながい こと、こんな とおくまで
 きた ことが ありませんでした。花が、
 たくさん さいて いました。おばあさんは、
 花の においを くんくん かぎながら、
 「五さいって、なんだか ちょうちよみたい。
 ずいぶん あるいて、川に きました。
 ねこは、ぴよんと 川を とびこえました。
 「おばあちゃんも おいでよ。」

。花

と、ねこは さそいました。
 「だって、わたしは 五さいだもの。
 あら、そうね。五さいだから、
 わたしも とぶわ。」
 おばあさんは、とびました。
 おばあさんは、とびました。
 五さいの おばあさんは、
 九十四年ぶりに、川を とびこしました。
 「五さいって、なんだか とりみたい。」
 むこうぎしに つきました。



そして、もっと 川下の、ひろい 川の ほうまで
 あるきました。ねこは、ズボンを ぬいで、
 川に とびこみました。
 「ああ、いい 気もち。おばあちゃんも おいでよ。
 と さそいました。
 「だって、わたしは 五さいだもの。
 あら、そうね。わたしも 入るわ。」
 と いった、おばあさんも、ながぐつを
 ぬいで、川に 入りました。
 「あら、スカートが ぬれるわ。」

川下

と いった、おばあさんは、スカートを
 もち上げました。まえかけの 中に、
 さかなが 一ぴき 入って いました。
 「あら、わたし、なんて、さかなつりが
 じょうずなんだろう。五さいって、
 なんだか さかなみたい。」
 おばあさんが 立ち上がると、
 まえかけの ひもが、水の 中に
 入りました。すると、まえかけの ひもに、
 一ぴきずつ、さかなが ぶら下がって きました。



ぶら下がる

「あら、あら、あら、あら。わたし、なんて、さかなつりが じょうずなんだろう。」

おばあさんは、すっかり おちゆうに なって、さかなを とりました。

「五さいって、なんだか ねこみたい。」

ねこも、おばあさんも、たくさん さかなを

とりました。

「ねえ、わたし、どうして まえから 五さいに

ならなかったのかしら。らいねんの

おたんじょう日にも、ろうそく 五本、

かって きて おくれ。」

と、おばあさんは いいました。

「でも、おばあちゃん、

五さいでも、ケーキ

つくるの じょうず。」

ねこは、すこし

しんぱいそうに ききました。



▼おばあさんが した ことを かきましよう。

九十九さいの おたんじょう日のまえ	九十九さいの おたんじょう日	おたんじょう日の つぎの日
まめのかわをむいたり、 おひるねをしたりしま した。		

▼ねこが さかなつりに さそくと、おばあさんは、なんと
いいましたか。

- 九十九さいの おたんじょう日の まえ
- おたんじょう日の つぎの 日

▼「だって だつての おばあさん」の 中で、「いいな。」

「すきだな。」と おもった ところを かきましよう。
そう おもった わけも かきましよう。

すきなところ

「一さい、二さい、三さい、四さい、五さい。
五さいのおたんじょう日、おめでとう。」

わけ

ろうそくのかずと、おばあさんの年が
おなじになって、おもしろいからです。

ろうそくの かずと、
おばあさんの 年が
おなじに なる ところが
すきだな。



立、エヤウ立
花、一、サナオ花、花
花

(3) - (5)